



2020年3月期 決算説明資料

2020年5月14日

 **ワイエイシーホールディングス 株式会社**

(証券コード: 6298)

<http://www.yac.co.jp>

▲ 将来見通しに関する記述についての注意事項

このプレゼン資料で述べる将来の当社に関する見通しは、現時点での情報を元に作成したものです。

当社グループのお客様である半導体等の業界は技術革新のスピードが速く、競争の激しい業界です。

また、世界経済、為替レートの変動、各業界市況、設備投資の動向は、当社グループの業績に直接的・間接的に影響を与える様々な外部要因があります。


したがって、実際の売上高および利益は、このプレゼンテーション資料に記載されている予想数値とは大きく異なる可能性があることをご承知おき下さい。



Contents

1. 2020年3月期連結決算の概要

2. ワイエイシイグループの今後の展望

A horizontal banner at the top of the page contains several small, square images: a golden gear, a grid pattern, a sunset, a bright sun, solar panels, and a person in a suit.

1. 2020年3月期連結決算の概要

■ 18年振りの赤字決算

- ・米中貿易摩擦等による景気減速に新型コロナウイルスが追い打ち
- ・例年最も売上・利益の見込める第4四半期に新型コロナウイルスが直撃

<メカトロニクス関連事業>

- ・HDD関連は好調
- ・米中貿易摩擦及び新型コロナウイルスの影響による設備投資抑制

<ディスプレイ関連事業>

- ・大口案件の設備投資時期の遅れと新型コロナウイルスの影響
- ・価格競争の激化に加え、不具合対応により利益圧迫

<産業機器関連事業>

- ・国内クリーニング市場は厳しい状況が続く
- ・中国市場への展開図るも新型コロナウイルスの影響で停滞

<電子機器関連事業>

- ・電力会社向けの大口需要が一巡 下期は回復基調
- ・人工透析装置の販売が好調に推移

1-2 事業結果



前年比大幅減収・減益／18年振りの営業赤字

(単位:百万円)

	2019年3月期	2020年3月期	前年比 増減額	前年比 増減率(%)
売上高	36,025	21,914	△14,110	△39.2%
営業利益 (営業利益率)	1,842 (5.1%)	△361 (△1.6%)	△2,204	—
経常利益	1,852	△443	△2,296	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,094	△958	△2,053	—
1株当たり 当期純利益(円)	121.68	△106.08	△227.76	—
研究開発費	562	498	△64	△11.4%
設備投資額	1,104	216	△887	△80.4%
減価償却実施額	604	572	△31	△5.2%

前年度は富士工場新設及びエレックス新工場取得

1-3 事業別売上・利益



(注)前年同期は現在のセグメントに合わせて再集計しています。

(単位:百万円)

		2019年3月期	2020年3月期	前年比 増減額	前年比 増減率	備考
メカトロニクス 関連	売上	10,651	8,412	△2,238	△21.0%	①米中貿易摩擦及び新型 コロナウィルスの影響 ②HDDは好調維持
	利益	828	262	△566	△68.4%	
ディスプレイ 関連	売上	15,883	4,570	△11,312	△71.2%	①設備投資時期の遅れ ②価格競争の激化 ③不具合対応によるコスト
	利益	262	△1,047	△1,309	—	
産業機器 関連	売上	1,961	1,768	△193	△9.9%	①国内市場は厳しい環境 ②中国市場への販売を強 化もコロナにより停滞
	利益	161	△13	△175	—	
電子機器 関連	売上	7,528	7,162	△365	△4.9%	①電力向け大口需要一巡 下期は回復基調 ②人工透析装置の販売好調、 開発投資により利益減
	利益	445	289	△155	△35.0%	
HDその他	利益	144	147	3	2.1%	
合計	売上	36,025	21,914	△14,110	△39.2%	
	利益	1,842	△361	△2,204	—	

1-4 事業別受注額・受注残 (連結ベース)



(注)前年同期は現在のセグメントに合わせて再集計しています。

(単位:百万円)

		2019年3月期	2020年3月期	前年比 増減額	前年比 増減率
メカトロニクス 関連	受注額	10,839	8,888	△1,950	△18.0%
	受注残	3,241	3,718	476	14.7%
ディスプレイ 関連	受注額	6,326	4,916	△1,410	△22.3%
	受注残	7,832	8,178	345	4.4%
産業機器 関連	受注額	1,962	1,857	△104	△5.3%
	受注残	67	156	89	132.7%
電子機器 関連	受注額	6,337	10,744	4,407	69.5%
	受注残	1,272	4,854	3,581	281.4%
合計	受注額	25,465	26,407	941	3.7%
	受注残	12,415	16,907	4,492	36.2%

1-5 貸借対照表のレビュー



<資産>

(単位:百万円)

	2019年3月	2020年3月	増減額	備考
現預金	8,032	6,531	△1,501	
売上債権	14,366	12,469	△1,896	売上の減少
棚卸資産	8,968	10,838	1,870	仕掛品の増加
その他流動資産	1,494	711	△782	
固定資産	8,781	8,583	△198	
資産合計	41,645	39,135	△2,509	

<負債・純資産>

(単位:百万円)

	2019年3月	2020年3月	増減額	備考
仕入債務	8,157	5,754	△2,402	売上の減少
その他流動負債	9,390	11,692	2,301	短期借入金の増加
固定負債	8,835	7,623	△1,212	長期借入金の減少
純資産	15,261	14,065	△1,196	
負債・純資産合計	41,645	39,135	△2,509	

1-6 キャッシュフローのレビュー



(単位: 百万円)

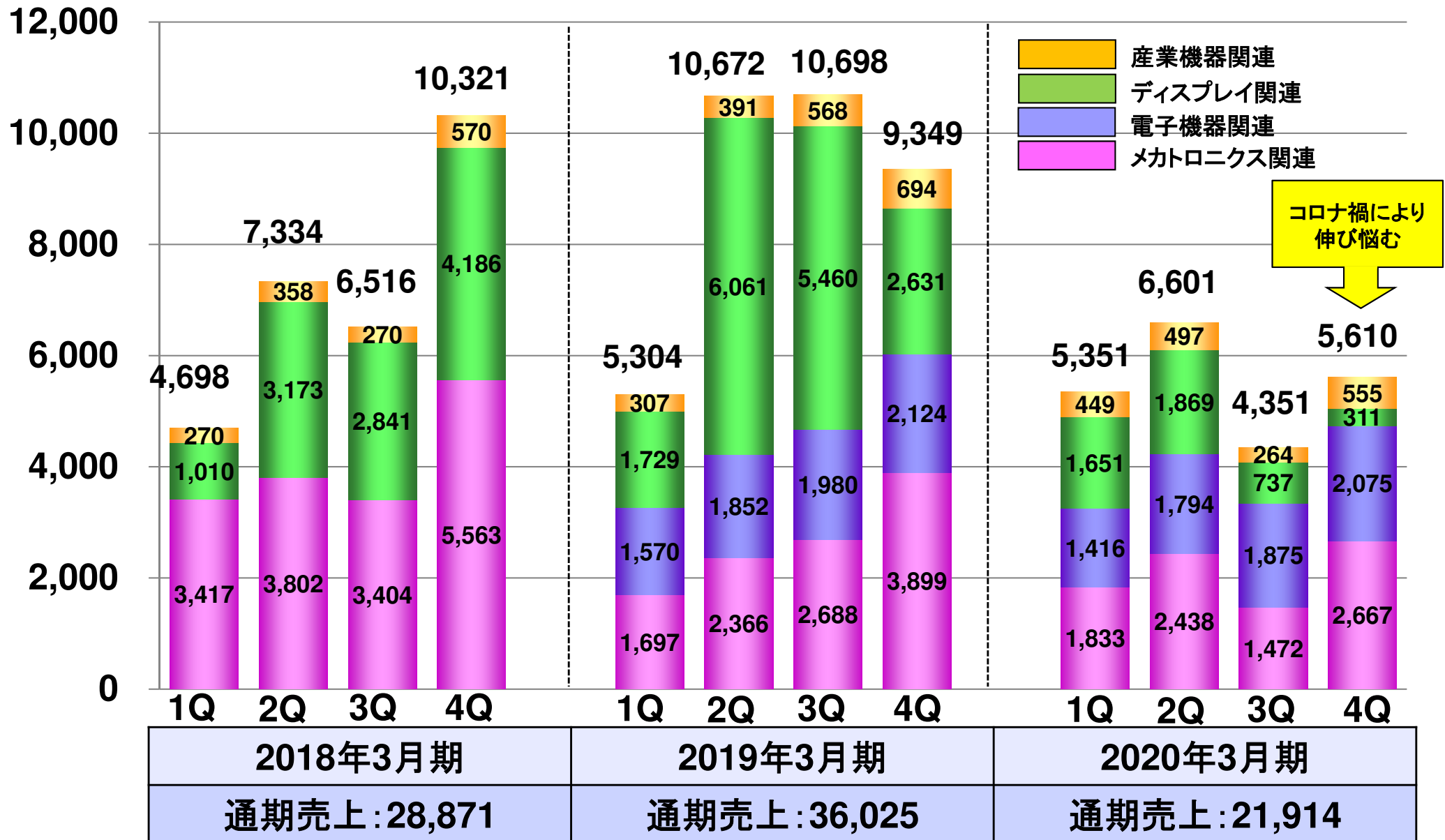
	2019年3月期	2020年3月期	主な増減要因	
営業活動によるC/F	△1,505	△2,652	増加	売上債権の減少
			減少	仕入債務の減少、棚卸資産の減少
投資活動によるC/F	99	44	増加	
			減少	
財務活動によるC/F	1,328	1,188	増加	短期借入金の増加
			減少	長期借入金の返済
現金及び現金同等物の 期末残高	7,898	6,450	前年度末比1,448百万円減少	

2-1 事業別四半期毎 売上高



売上高

(単位:百万円)



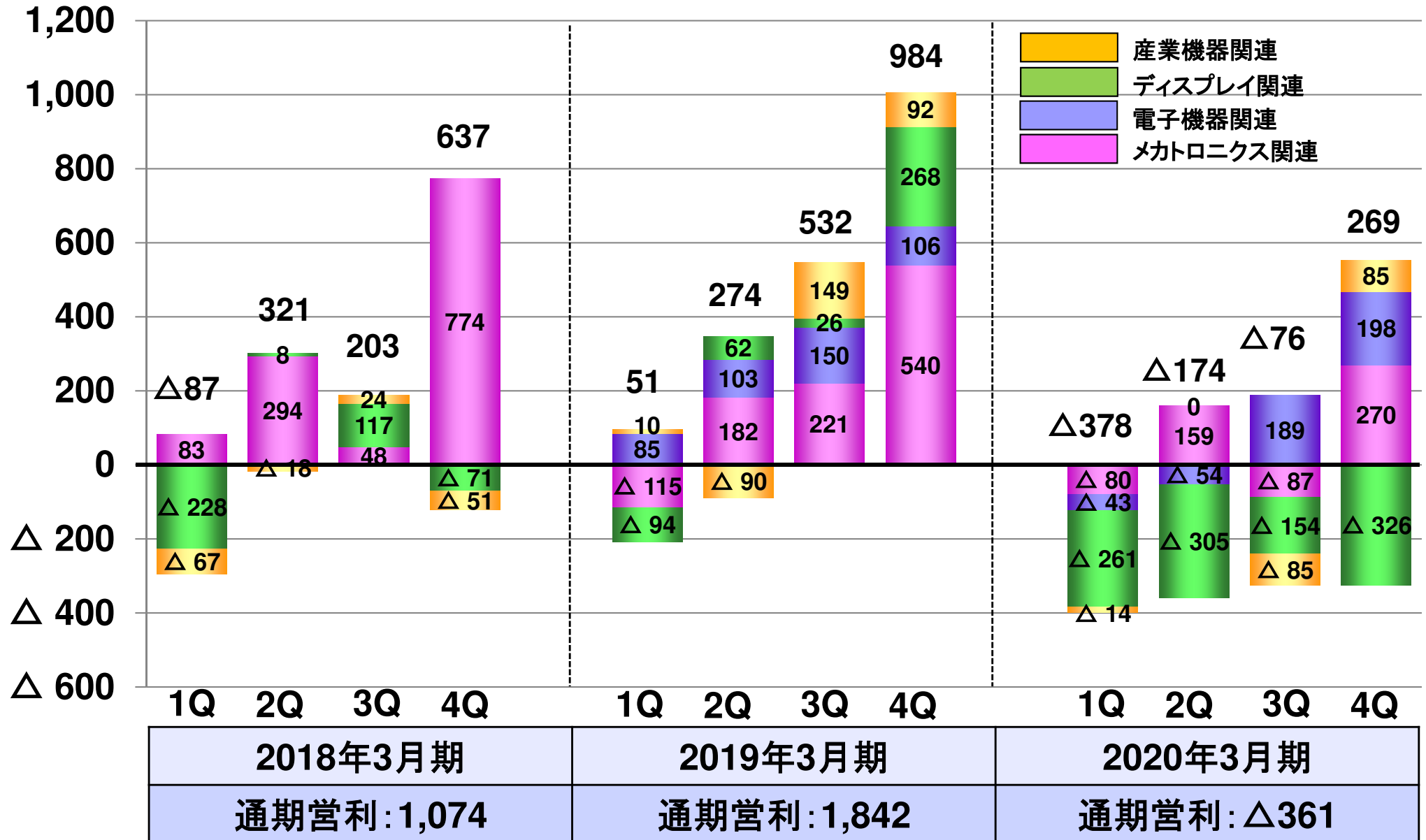
※ 2018年3月期は「メカトロニクス」「ディスプレイ」「クリーニングその他」の3セグメントによる実績

2-2 事業別四半期毎 営業利益



営業利益

(単位:百万円)



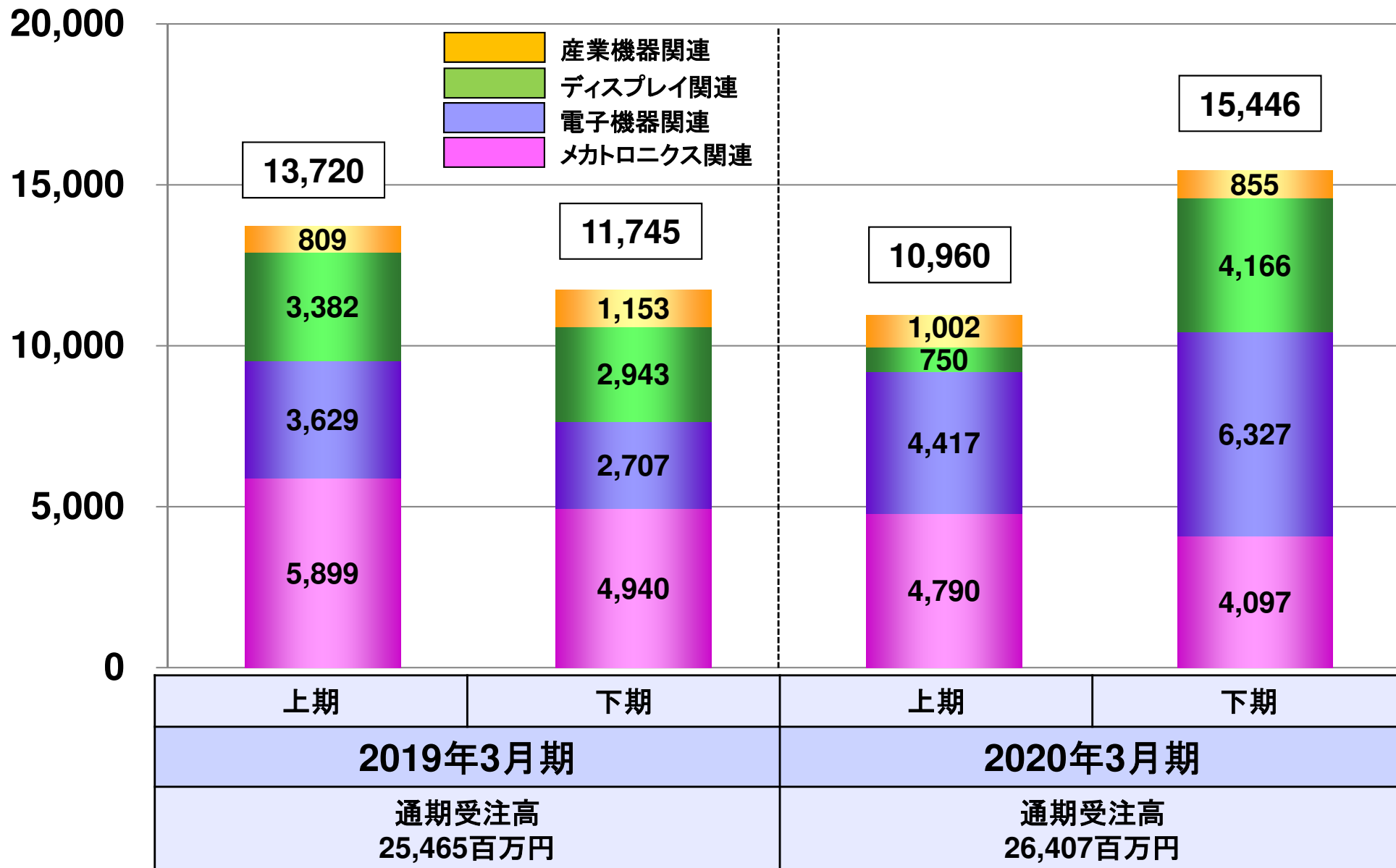
※ 2019年3月期は「メカトロニクス」「ディスプレイ」「クリーニングその他」の3セグメントによる実績

2-3 事業別半期実績 受注



(連結ベース)

(単位:百万円)

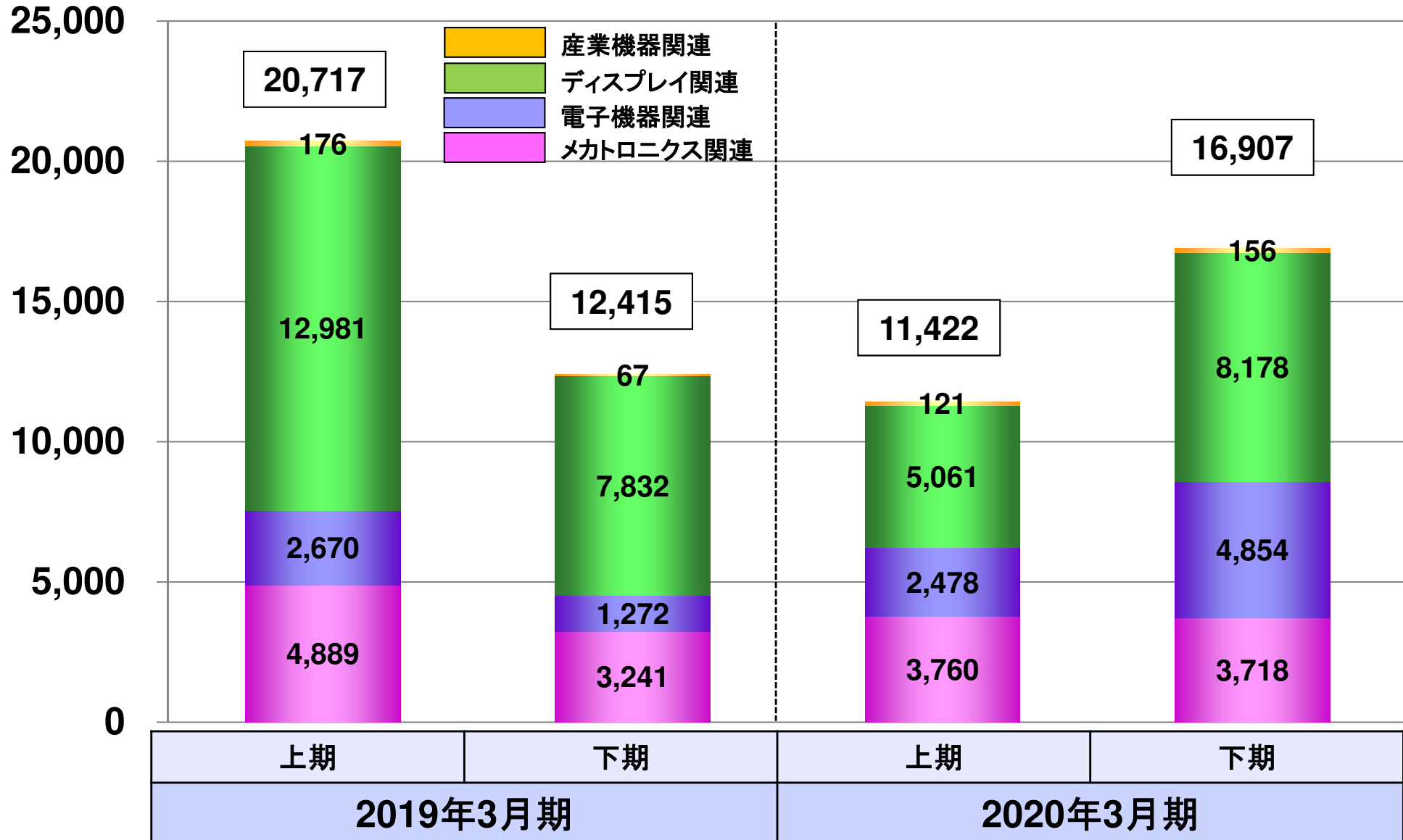


2-4 事業別半期実績 受注残



(単位:百万円)

(連結ベース)



3. 2021年3月期事業計画



2021年3月期の業績予想並びに配当予想につきましては、新型コロナウイルスによる影響を踏まえ、合理的に予想することが可能となった時点で速やかに開示いたします。



2. ワイエイシイグループの今後の展望

4-1 過去の業績



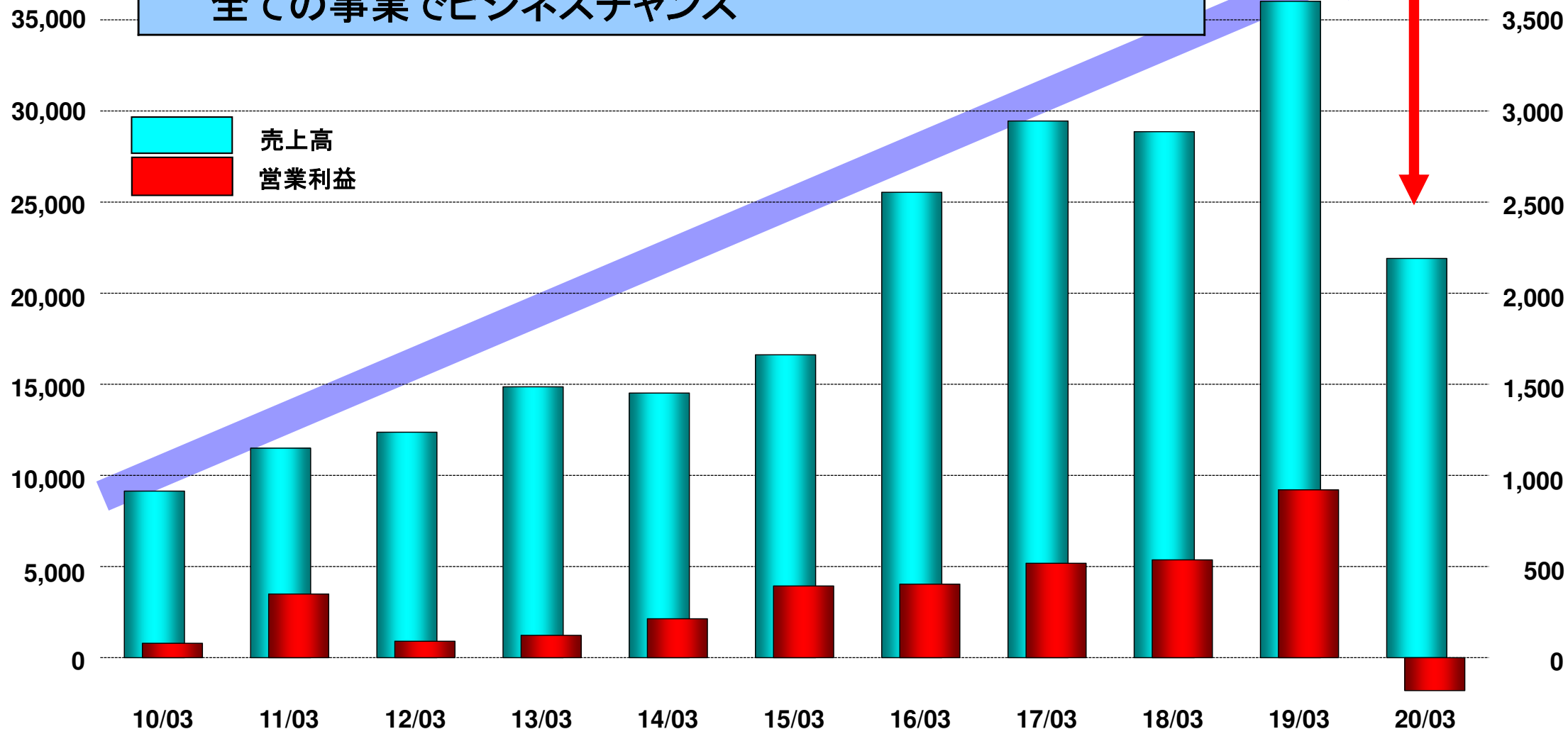
(単位:百万円)

1. 2020年3月期は米中貿易摩擦及び新型コロナウイルスの影響を受け、成長トレンドに乗れなかった

2. 今後は5G関連、医療関連、中国市場、IoT関連により、全ての事業でビジネスチャンス

売上高

営業利益



4-2 成長に向けた事業別取組(2019年度)



成長に向け、2019年度に取り組んだ内容

メカトロニクス関連事業

- ・(株)大一を連結子会社化し、キャリアテープ事業を拡充

ディスプレイ関連事業

- ・WET事業からの撤退を決定
- ・赤字脱却に向けた構造改革に着手

産業機器関連事業

- ・中国合弁会社を設立し、中国向けの販売強化を図る

電子機器関連事業

- ・次世代透析装置の開発

4-3 V字回復に向けた重点テーマ(2020年度)

2020年度はV字回復を目指し、下記項目を最重点テーマとして、ワイエイシイグループの総力を結集して取り組んでいます。

- ① 量産新製品 5テーマを必ず成功させる
- ② 粗利率UP 25%を目指す
- ③ 直接人員の稼働率UPに向けた受注の拡大
- ④ M&Aの積極的推進
- ⑤ 売掛金の回収促進
- ⑥ 創立50周年に向けて新3ヶ年計画の策定

4-4 ワイエイシイグループの今後の展望



1. 5G(第5世代移動通信システム)関連の需要拡大

用途	製品	関連セグメント
①スマートフォン用OLED	エッチング装置・アニール装置	ディスプレイ
②電子部品・ディスクリット	選別機・テーピング機・キャリアテープ	メカトロニクス
③パワー半導体(Si-IGBT、SiC)	レーザアニール装置	メカトロニクス
④MEMSセンサー	イオンミリング装置	メカトロニクス
⑤高速通信デバイス	セラミックパッケージ切断機	メカトロニクス
⑥データセンター	HDDバーニッシュ装置	メカトロニクス

2. 医療関連の需要拡大

医療機関、個人向け	人工透析装置	電子機器
-----------	--------	------

3. 中国市場の拡大

①ホームクリーニング・リネン	各種仕上げ機	産業機器
②中国合弁会社を通じて、当社グループのオリジナル製品各種を中国に展開		全セグメント

4. IoT市場の拡大

①電力会社	監視・保守業務の自動化装置	電子機器
②データビジネス	各種自動化装置	全セグメント

■ 目標達成への基本戦略

1. 企業規模の拡大

- (1) 量産新製品の早期事業化
- (2) 既存製品のシェアUP、
消耗品・サービスの拡大
- (3) M&A・アライアンスの推進

2. 企業体質の向上

- (1) 高収益体質の確立
 - ①粗利率UP
 - ②既存事業・技術の横展開
- (2) 財務体質の強化
 - ①売掛金の早期回収
 - ②資本金の増強
 - ③キャッシュフローの健全化

3. グループガバナンスの強化

- (1) ビジネスユニット制
- (2) 中長期戦略経営
- (3) 全員経営・連携と競争

4. SDGsへの取組

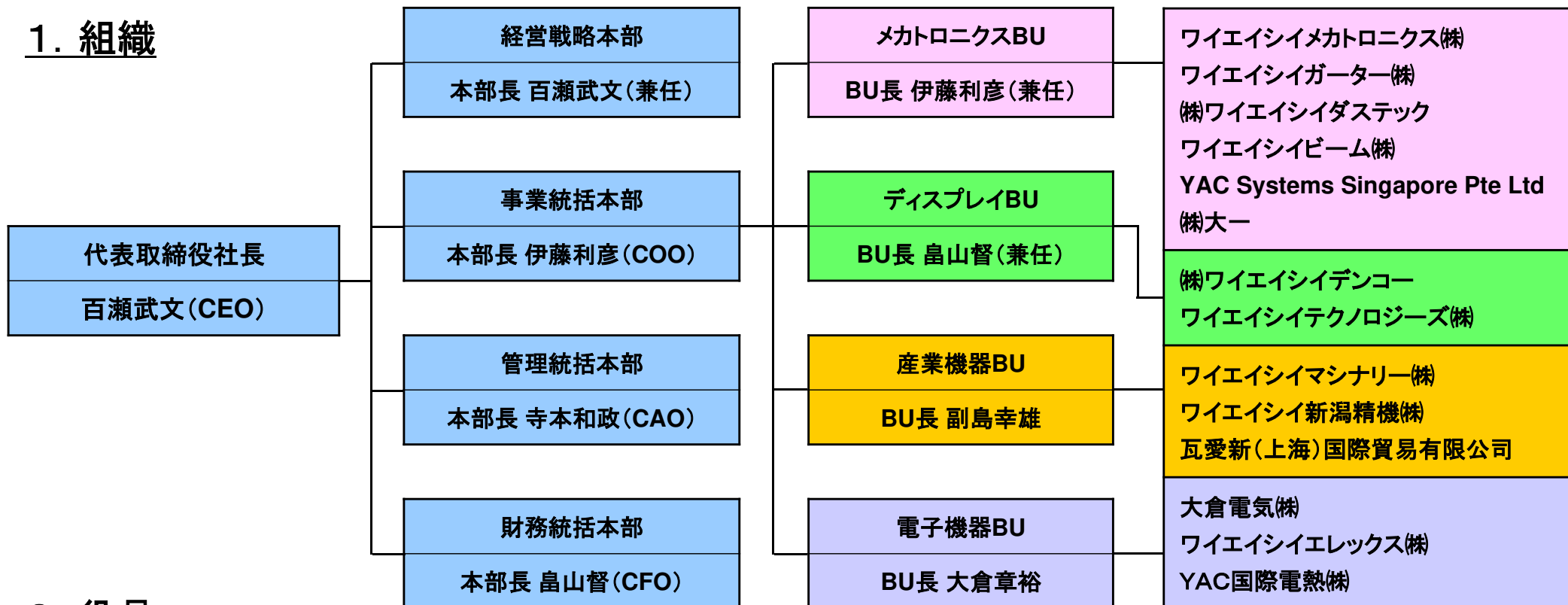
これらの戦略を実行し、2020年度のV字回復並びに、早期の売上規模1,000億円の達成を目指してまいります。

4-6 V字回復への新体制



ワイエイシイホールディングス株式会社 新体制(2020.5.14付)

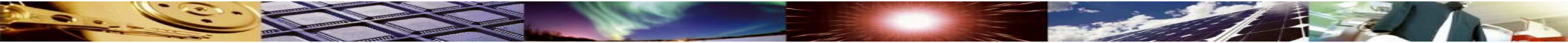
1. 組織



2. 役員

代表取締役社長	百瀬 武文	常勤監査役	辻 慎司
取締役専務執行役員	伊藤 利彦	監査役(社外)	高田 直規
取締役常務執行役員	寺本 和政	監査役(社外)	飯田 哲郎
取締役常務執行役員	畠山 督		
取締役(社外)	石田 祥二		
取締役(社外)	木船 常康		

- ① ビジネスユニット(BU)及び各グループ会社を統括する組織として、事業統括本部を新設
- ② 取締役の人数を削減し、迅速な経営判断が可能な体制を構築



さあ今日も、

ときめきと感動の日々であれ！

しなやか先端技術企業集団
ワイエイシーグループ